

【ポスター発表】

病院の実習指導者から見た社会福祉士新カリキュラム実習とは？

—2022年度末の状況と実施可能性—

○ 日本女子大学 赤澤 輝和 (008405)

キーワード：新カリキュラム、ソーシャルワーク実習、病院

1. 研究目的

本研究の目的は、2022年度末現在の病院における社会福祉士新カリキュラム実習（以下、新カリ実習）の状況と実施可能性について、実習指導者からの示唆を得ることである。

2. 研究の視点および方法

2019（令和元）年6月、厚生労働省より「社会福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて」が公表された。特に実習については大きな変更があったが、前回のカリキュラム改訂時のような実習指導者の要件変更はない。また、社会福祉士養成の中心を担う大学では3年次以降に実習を配置していることが多く、2023年度より新カリ実習が本格化すると思われる。しかし、実習指導者の新カリ実習に対する認識は十分に検討されていないため、2022年度末現在の状況と実施可能性を把握することには価値があると考えられる。

研究対象は、2013年度～2022年度にA大学のソーシャルワーク実習実績がある病院とし、回答は主に実習指導を担当する者、もしくはソーシャルワーカー責任者とした。A大学における実習指導者に対する新カリ実習方針は、2022年9月8日に全実習登録先施設に郵送で送付した。その他、病院の実習指導者に対しては、担当教員より実習報告会・実習指導者会議で情報提供を行った。方法は、郵送法による自記式質問紙調査であり、調査期間は2023年1月30日～3月10日であった。主な質問内容は、実習の受け入れ状況と体制、新カリ実習の受け入れ状況、新カリ実習の認識と準備状況、新カリ実習「教育に含むべき事項（以下、教育事項）」に関する実習プログラム実施実績と実施可能性とした。統計解析として、単純集計、および実習プログラムの実施実績と実施可能性はWilcoxon符号順位検定で比較し、統計学的有意水準は5%とした。

3. 倫理的配慮

日本女子大学人を対象とした実験研究に関する倫理委員会の承認を得て行った（2022年10月24日承認、課題番号第556号）。アンケート調査は、実習教育の一環として行った。研究利用に際し「病院におけるソーシャルワーク実習の実態—学生（卒業生）・実習指導者を対象とした後方視的研究—」として情報開示文書をもとに、個人情報の保護、研究対象者の要望によりオプトアウトできるように配慮した。（COI：なし）

4. 研究結果

10年間に実習実績があった病院は41カ所あり、23カ所(56.1%)より回答を得た。病院の背景は、病床数平均388.1床、MSW人数平均7.1人であった。回答者は、実習を主に担当している実習指導者が77.3%と最も多く、現在勤務する病院での経験年数平均13.1年、MSW経験年数平均18.5年であった。実習の受け入れ状況と体制は、実習指導者講習会受講済み者数は平均3.6人所属し、過去3年度の実習養成校数平均2.4校、実習生数平均3.3人であった。新カリ実習の受け入れ状況は、2021年度は受け入れなし(86.4%)と不明(13.6%)、2022年度は受け入れなし(86.4%)、不明(4.5%)、受け入れあり(9.1%)であった。2023年度は受け入れ内諾済み(40.9%)、依頼あり検討中(18.2%)であった。

新カリ実習の認知度は5段階で評価し、「知っている(59.1%)」、「どちらともいえない(27.3%)」、「あまり知らない(13.6%)」であり、「よく知っている」と「知らない」と回答した者はいなかった。新カリ実習情報入手経路の上位3項目は、「養成校からの文書(59.1%)」、「養成校の教員とのやりとり(54.5%)」、「養成校が開催した説明会や研修会(40.9%)」であった。新カリ実習の準備状況に関する上位3項目は、「新カリ実習に関する情報収集(50.0%)」、「新カリ実習と旧カリ実習の違いの整理(31.8%)」、「新カリ実習プログラムの検討(31.8%)」であった。

新カリ実習の「教育事項16項目(⑩の下位項目を独立してカウント)」に関する実習プログラムについて、旧カリ実習適用の実習生への実施状況(1:行っていない~5:常に行っていた)、新カリ実習適用の実習生への実施可能性(1:全く行えない~5:常に行える)の回答を求めた。その結果、「多職種連携及びチームアプローチの実践的理解」が最も実施状況(4.8点)、実施可能性(4.6点)の平均値が高かった。一方、「施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際(チームマネジメントや人材管理の理解を含む)」は実施状況(2.6点)、実施可能性(2.9点)は最も平均値が低かった。また、すべての項目の実施状況と実施可能性には有意差があることは言えなかった。さらに、実施状況について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたと50%以上が回答した項目として、「利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成(54.5%)」があった。

5. 考察

病院の実習指導者を対象として、新カリ実習の2022年度末現在の状況と実施可能性を検討した。最も重要な知見として、新カリ実習プログラムの実施状況と実施可能性を示した点がある。これまでの実習においても新カリ実習の「教育事項」に関する実習プログラムは一定数実施されていたが、実施頻度に関しては差がある可能性がある。北海道の実習指導者を対象とした先行研究と同様、新カリ実習の「教育事項」に基づく実習プログラムの課題が明らかになり、2023年度から本格化する新カリ実習に向けた示唆を得た。